



令和2年8月17日

報道関係者 各位

国立大学法人帯広畜産大学

帯広畜産大学農業共生圏高度専門家育成事業 共同研究によるロードキルアプリ実証実験を開始

このたび、本学が農業生態系と自然生態系の共存・共栄を目指して活動している農業共生圏高度専門家育成事業の一環として、環境農学研究部門の浅利裕伸特任講師が株式会社バイオームとの共同研究によって作成したロードキルアプリの実証実験を9月から開始いたします。

ロードキルとは動物と車両の事故のことであり、日本でも毎年多くのロードキルが発生しております。しかし、小さな動物の事故や、市町村道などで発生するロードキルの多くは把握されていないことや、ロードキルのデータがあっても活用されていないといった問題があります。

昨年、野生生物の保全と交通事故軽減のため、市民も活用できるビッグデータの収集システムを構築することを目的に、株式会社バイオームとロードキルアプリ（試行版）を作成しました。このアプリは、ロードキルを発見した際に、写真を撮影してアプリに登録することで、ロードキルの位置情報と対象種のデータを収集することができます。収集したデータを基に、ロードキル発生場所や対象種を把握し、ロードキル防止対策に役立てることが可能となります。

昨年より利用者や地域を限定して、アプリのサンプリング精度や使い勝手などの実証実験を行ってきましたが、9月より、利用者と地域を全国に拡大して1年間の実証実験を実施することとなりました。ロードキルに関心がある方であれば、年齢問わず誰でもご参加いただくことが可能です。

つきましては、より多くのデータが収集できるよう皆様にこの取組みを知っていただくため、本件の関係各所への周知につきまして、ご協力くださいますようお願いいたします。

【本件問合せ先】

帯広畜産大学 環境農学研究部門 特任講師 浅利裕伸

電話：0155-49-5500

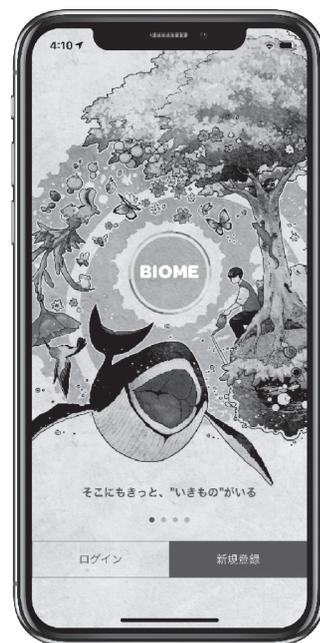
E-mail：asari@obihiro.ac.jp



日本全国を対象とした スマートフォンを用いた ロードキル情報収集サービスの開発

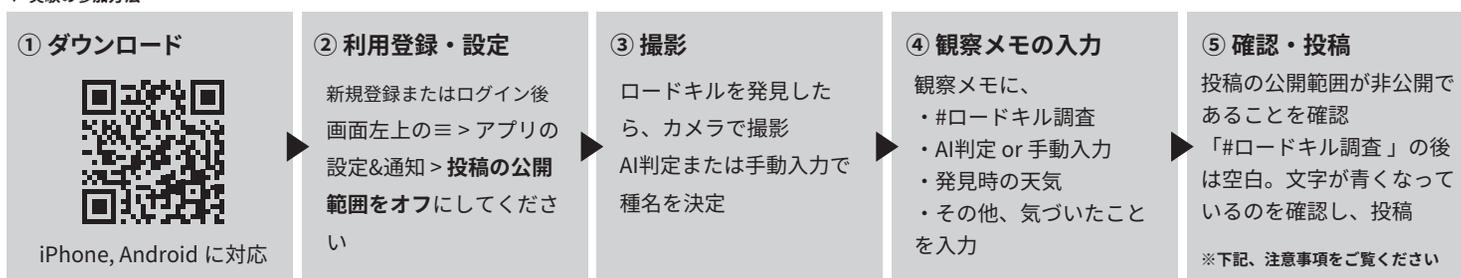
2020年9月1日～2021年8月31日

ロードキル研究を加速させるためには、誰でも簡便にロードキルの情報を収集・蓄積できるプラットフォームが必要です。本実証実験ではスマートフォンアプリを利用したロードキル報告の試用版として、いきものコレクションアプリ「Biome（バイオーム）」を用いて、正確なデータ収集の可否および利便性について検証します。



スマホアプリ「Biome」

▼ 実験の参加方法



期間	2020年9月1日 - 2021年8月31日
場所	日本全国の道路
参加資格	レンジャーなどロードキルに関心が高い人
参加方法	(1) ロードキルを発見したらスマートフォンのカメラで撮影 (2) 観察メモに「#ロードキル調査」を入力して投稿
事前準備	アプリ「バイオーム」をインストールしてください。 ・カメラの位置情報取得（GPS 情報）をオンにしてください。 ・位置情報が付加されている写真のみが投稿できます。
利用上のご注意	以下の利用方法をお守りいただきますようご協力お願いします ・種名がわからない場合はAI判定をお使いください。種名が分かる場合は、手動で種名を入力・検索して種名を決定してください。AI判定で適切な候補が見当たらない場合は分かる範囲で同定し、上位分類群（イタチ科、有尾目など）で投稿してください。 ・いつも投稿は公開になるためお控えください。 ・公開範囲が非公開になっていることをご確認ください。市町村表示は表示・非表示のいずれでも問題ございません。 ・バイオームアプリには「グロ画像フィルター」が設定されており、血が写り込んでいる写真は投稿できない場合があります。その際は、少し遠くから撮影する、撮影した画像を白黒に変換するなどのご対応をお願いいたします。 ・投稿の際には「#ロードキル調査」を観察メモに必ずご入力ください。「#」の打ち方が分からない場合は、「いげた」と入力いただきますと変換候補から選べます。

実験の背景と目的

交通インフラの発達に伴って、ロードキルの問題は世界中で日に日に大きくなっています。日本は、狭い国土に道路が縦横無尽に張り巡らされており、全国の至る所でロードキルが発生しています。ところが、国内ではロードキルに関わる研究者の数が少なく、そのデータは殆ど蓄積されていません。絶滅が危惧されている希少種はもとより、普通種のデータも不十分であるのが実情です。データ不足の理由としては、国内の道路ではロードキルの情報が収集されたとしても、数年後には破棄されてしまうことが挙げられます。一方、海外では市民がロードキルの被害を受けた生物の種名や場所などを記録するシステムが存在しており、情報が蓄積されつつあります。それらの情報はオープンデータとして活用されている事例もあります。

国内でも、「Biome」などのスマートフォンアプリを利用し、市民が発見したロードキルの情報を収集・蓄積するという案があります。得られたデータは研究利用はもちろんのこと、道路管理者が事故防止の策を講じる際にも活用でき、希少動物の保全にも寄与するものと期待されます。

実証実験のご参加・ご協力、宜しく願いたします。

<実証実験の責任者・お問い合わせ先>

帯広畜産大学環境農学研究部門特任講師 浅利裕伸
電話：0155-49-5500 E-mail：asari@obihiro.ac.jp

株式会社バイオーム

世界中の生物の分布情報を集めてビッグデータ化し、環境ビジネスのプラットフォームを構築する事業に取り組む京都大学発のベンチャー企業です。経済産業省が選定する『J-Startup』に選ばれ（2018年）、第5回京信・地域の企業家大賞で最優秀賞受賞（2018年）や、京都市目利き委員会Aランク認定（2019年）など、様々な受賞歴を持つスタートアップです。

<アプリのお問い合わせ先>

株式会社バイオーム
WEB：https://biome.co.jp
電話：075-432-7622
E-mail：info@biome.co.jp